

本日、ここに、鹿島市議会令和7年3月定例会を招集し、新年度の各会計予算をはじめ、諸案件についてご審議をお願いするものですが、議案の提案に先立ちまして、市政運営の所信の一端と主要な施策について申し上げます。

## 【はじめに】

昨年の市制施行70周年記念式典の中で、私は「鹿島を前向きで豊かに、笑顔がつながるまちへ」と申し上げ、市民の皆様とともに未来へ歩んでいくことを誓いました。令和7年度は、さらに魅力ある地域づくりを加速し、「進化する鹿島」を創造していきたいと考えています。

また、有明海沿岸地域など地域全体での持続的な成長を図り、鹿島の発展へつなげていく「連携」の強化にも引き続き取り組んでいきます。

「進化する鹿島の創造」、「連携による地域の輪の広がり」が社会情勢の変化に柔軟に対応しながら、人口減少社会に即した鹿島らしい未来へのまちづくりにつながっていくものと確信しています。

この歩みを着実なものとしていくため、その基礎となる持続可能な行財政運営に努めながら、全力で市政運営にあたっていきます。

## 【第八次鹿島市総合計画の策定について】

現在、その未来へのまちづくりの指針となる第八次鹿島市総合計画の策定作業を進めています。本計画では、昨年開催した「市長と語る会」でのご意見や、子ども・子育て会議などでの子育て世代のご意見、現在実施中の市民アンケートなど、幅広く皆様の声を聴きながら「ともに鹿島をつくる」という意識のもと、鹿島の将来の方向性をわかりやすく示した内容にしたいと考えています。

策定作業の進捗状況に応じて、随時、議員の皆様の説明・報告させていただくこととしています。

### 【「子育て支援」について】

それでは、令和7年度の主要な施策などについて申し上げます。

令和7年度は第七次鹿島市総合計画の総仕上げの年であり、目指す鹿島の都市像「みんなが住みやすく、暮らしやすいまち」を実感できる取組をさらに前に進めていきます。

まず、「子育て支援」について申し上げます。学校給食費については、これまで食材費高騰などの影響を緩和するため国の交付金やふるさと納税基金繰入金（市長におまかせ分）を活用し、保護者負担の軽減に取り組んできました。

令和7年度からは、進学を控え教育費の負担が大きくなる小学6年生と中学3年生の2学年を対象に「学校給食費の無償化」を行うとともに、小学1年生から5年生、中学1年生及び2年生を対象に「学校給食費の一部助成事業」に取り組み、子育てしやすい環境づくりを進めていきます。

また、子どもたちの健康を守り、子育て世帯の経済的負担を軽減するため、「小児インフルエンザ助成事業」を拡充し、助成金額の増額と対象年齢を拡大します。子どもたちの感染予防対策の強化は、看護する保護者の負担を軽減し、保育・教育現場における感染拡大防止にも寄与する取組となります。

そのほか、鹿島高校生に対する支援として、韓国の釜山外国語大学校での語学研修費用の一部を助成する「海外研修チャレンジ事業」を拡充します。鹿島高校の魅力向上と、将来の鹿島を担う人材の育成につながることを期待しています。

これら支援制度のほか、出産前から子育て期まで切れ目なく効果的・一体的なサポートを行うため、令和7年4月から「鹿島市こども家庭センター」を設置します。

これは、従来の「鹿島市子育て総合相談センター」が持つ母子保健機能と「鹿島市子ども家庭総合支援拠点」が持つ児童福祉機能を活かしながら、一体的な相談体制を構築するものです。

支援を必要とする全ての妊産婦、こども、困難を抱える家庭を含む全ての子育て世帯に寄り添いながら、切れ目のないサポートを行っていきます。

### 【「移住・定住の推進」について】

次に、「移住・定住の推進」について申し上げます。

結婚や新生活をスタートしやすい環境づくりを進めるため、令和7年度から結婚へとつながる出会いの場を提供する「さが出会いサポートセンター」の登録料や新婚世帯の住居の購入・引っ越し費用などを支援する「新生活支援事業」に取り組みます。

また、移住や創業による鹿島への人の流れを生み出すため、市内全域で空き物件などを活用して事業を開始される方への支援制度を創設します。市内各所での多様なビジネスの展開を支援することにより、新たなサービスの提供や雇用機会の創出など、地域の魅力向上につなげていきます。

そのほか、空家の有効活用という観点から、空家の「適正管理」・「有効活用」などの各段階で総合的に支援する「鹿島市空家等対策総合支援事業」を昨年6月に創設しました。

これらの支援策とともに、鹿島の魅力、暮らしやすさの情報発信に努めながら総合的な人口減少対策に取り組んでいきます。

## 【「デジタルトランスフォーメーション（D X）の推進」について】

次に、「デジタルトランスフォーメーション（D X）の推進」について申し上げます。

これまで、いつでもどこでも市役所の手続がお手元のスマートフォン一つでできる「てのひら市役所」の取組を進めてきました。

今月からは、手続の記入負担の軽減と時間の短縮を目指し、市民課において、転入・転出などの手続の際の「書かない・待たない窓口」の推進に取り組んでいます。

令和 7 年度は、地域で利用できるデジタル通貨やポイントシステムの構築に取り組めます。市民の皆様が地域活動などを通じて得たポイントを市内の店舗等で利用できるシステムとして、地域の賑わい創出や地域経済の活性化につなげていきます。

引き続き、より快適で豊かな市民生活を実現する D X の推進に取り組んでいきます。

## 【「ゼロカーボンの推進」について】

次に、「ゼロカーボンの推進」について申し上げます。

昨年、本市は国の脱炭素重点対策実施地域に選定され、令和 1 0 年度までの 5 年間を重点期間として、現在、再生可能エネルギー導入や省エネルギー行動の推進、事業所や住宅の省エネルギー化に取り組んでいます。

令和 7 年度においても、太陽光発電設備や蓄電池の設置補助など省エネルギー化を支援し、2 0 5 0 年カーボンニュートラルの実現に向けて、皆様と一丸となり歩みを進めていきます。

## 【ＪＲ長崎本線に関する取組について】

次に、ＪＲ長崎本線に関する取組について申し上げます。

令和７年度は上下分離から３年が経過し、特急列車の減便や運行ダイヤの改正など先行きが懸念されます。今後もしっかりと、利便性の向上などＪＲへの要望活動に取り組んでいく必要があります。

これまでの活動の成果として、２月１３日から１８日までの平日４日間、高校のテストにより学生の帰宅時間が早まることに対応して、ＪＲは県内で初の試みとなる「臨時列車」を運行されました。長崎本線は、正午過ぎの時間帯に通常の運行ダイヤでは下り列車が少なく、最長で２時間ほど列車を待たなければならない状況でした。今回の運行で通学される学生の負担軽減を実現でき、今後の活動へのチカラとなりました。

このようなＪＲへの要望活動とともに、長崎本線のさらなる利用を促進するため、これまで取り組んできた特急列車料金の助成策「かささぎでＧｏ！キャンペーン」の取組を強化していきます。市民の皆様をはじめ市外のお客様へのプロモーション活動とともに、さらに利用しやすい制度へリニューアルし、特急列車「かささぎ」の利用促進につなげていきます。

今後も沿線自治体や県と連携しながら、この地域に欠かすことのできない「長崎本線」を守っていきます。

## 【地域農業を守る取組について】

次に、地域農業を守る取組について申し上げます。

令和５年度から市内６地区で地域農業者や関係者と話し合いを重ね、多くのご意見をいただきながら、地域農業の将来の在り方や農地利用の道しるべとなる「地域計画」の策定に取り組んできました。

豊かな農産物を育む鹿島の大地を次の世代へ大切に引き継いでいけるよう、今後も地域の皆様と話し合いを重ねながら、関係機関と連携した取組を進めていきます。

### 【有明海の再生について】

次に、有明海の再生について申し上げます。

諫早湾干拓堤防排水門を開門せず有明海の再生を図るとした国の方策に、有明海沿岸漁業団体が賛同したことを受け、国の令和7年度予算において、「有明海再生加速化対策交付金」が創設されることになります。

この交付金において、今後10年間を有明海再生の加速化対策期間として総額100億円が措置され、漁場環境の改善や水産資源の確保の取組とともに、漁業経営改善・新技術導入などの新たな挑戦が後押しされます。

市としても有明海の再生に向けて、国や県、漁業者など有明海に関わるもの皆と連携・協力し、全力で取り組んでいきます。

### 【鹿島を支える社会資本整備について】

次に、鹿島を支える社会資本整備について申し上げます。

「有明海沿岸道路」や「国道498号（鹿島武雄間）」の整備は、地域の成長力・競争力の強化に不可欠であり、近年、激甚化する災害に備え緊急輸送道路の役割を担う「命の道」としても重要な道路事業です。

これまでもあらゆる機会を捉えて国や県、国会議員に対して整備の必要性や地元の熱意などを強く訴えてきました。

先月、東京都で開催された「全国みちづくり女性団体交流会議2024」には本市からも「鹿島市観光協会」及び「道の駅鹿島」が参加されました。

交流会議では、国土交通省道路局長をはじめ幹部の方々と直接、話ができる場が設けられ、有明海沿岸地域の豊かな地域資源の紹介や、「有明海沿岸道路」の必要性・地元の熱意など、しっかりと伝えていただきました。

このような民間団体の活動は、道路整備を進めていくうえで大きな力・支えとなることから、これからも協力・連携し「有明海沿岸道路（福富鹿島道路）」などの早期整備や「有明海沿岸道路（鹿島諫早間）」及び「国道498号（鹿島武雄間）」の早期事業着手に向け、要望活動など積極的に取り組んでいきます。

また、市民の生命や暮らしに不可欠のライフラインである上下水道について、先月、災害に強く持続可能な上下水道システムの構築に向け鹿島市上下水道耐震化計画を策定しました。今後は、避難所など重要施設に接続する管路等の耐震化を計画的に推進し、施設の機能維持に努めることで、市民生活の安全・安心の確保に取り組んでいきます。

### 【肥前鹿島駅周辺整備事業について】

次に、肥前鹿島駅周辺整備事業について申し上げます。

令和7年度は肥前鹿島駅新駅舎の造成工事がスタートするなど駅周辺整備事業が本格化します。ハード面の整備は手段であり、マチの玄関口から中心市街地へと賑わいを広げ、さらにはマチ全体の価値を引き上げることが事業の目的です。

そのための賑わいづくりやおもてなしのまちづくりなど、ソフト面の取組が重要で、市民の皆様が使いこなし楽しんでいただく場所、来訪者が興味を持ってふれあいたくなる場所にしていきたいと考えています。私たちのマチの「自発の地域づくり」をさらに前進させる「むしろこれから」の取組を進

めていきます。

### 【市民生活を支える取組について】

次に、市民生活を支える取組について申し上げます。

令和7年度から「带状疱疹ワクチンの定期接種と任意接種の費用に対する助成事業」を開始します。

带状疱疹は、高齢者や免疫機能が低下した方にとっては重症化のリスクを伴う病気で80歳までに3人に1人が発症するといわれています。4月からは65歳の方及び65歳を超える方は70歳、75歳などの5歳年齢ごとに定期接種を受けることができます。この定期接種の対象とならない50歳から64歳までの方について、任意接種の費用を助成します。

予防接種を受けることで、発症を予防するとともに、带状疱疹後神経痛のリスクも軽減することができます。市民の皆様の健康を守り、医療費の削減にもつなげていきます。

そのほか、高齢者の交通事故防止を目的に取り組んできた「運転免許証自主返納者支援制度」を拡充します。

75歳以上の自主返納された方に加え、令和7年度からは失効者の方に対しても8,000円分のバス・タクシー券を交付します。このバス・タクシー券は、お一人1回限りの制度ですが、交付の翌年度以降は4,000円分のバス・タクシー券を3,000円で販売することで、さらなる支援に取り組んでいきます。

引き続き、交通事故の防止と外出機会の創出に努め、高齢者が安全・安心に元気で暮らせるまちづくりに取り組んでいきます。

## 【スポーツのチカラについて】

次に、スポーツのチカラについて申し上げます。

昨年、「SAGA2024国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会」が盛会のうちに幕を閉じました。鹿島の地域力が存分に発揮され、市民の盛り上がりを実感する大会となりました。このスポーツのチカラを鹿島の元気へとつなげ、スポーツ文化の推進に取り組んでいきます。

本日から、箱根駅伝の強豪・東洋大学が鹿島での7回目の合宿をスタートされました。合宿期間中、学生による「陸上教室」には多くの子どもたちも参加予定で、トップアスリートから直接指導を受けることで陸上競技の楽しさ、スポーツの大切さを学ぶ貴重な機会になるものと期待しています。

2月23日には「公認鹿島祐徳ロードレース大会」が開催され、青山学院大学や東洋大学、県内からの注目選手など13名の招待選手が出場予定です。

「する」・「観る」・「支える」スポーツに関わるすべての人がスポーツのチカラを享受し、より豊かな生活を送ることができるよう今後もスポーツとふれあう場の提供に取り組んでいきます。

以上、3月定例会の開会にあたり、市政運営の所信の一端と主要な施策について申し上げます。今後とも市民の皆様並びに議員の皆様のさらなるご理解とご協力をお願い申し上げます。

## 【議案について】

それでは、提案する案件について、その概要を説明します。議案は、専決処分事項の承認、当初予算、補正予算、新規条例制定、条例改正など合計28件です。このうちの主な議案について申し上げます。

### 【専決処分事項の承認について】

まず、**議案第 1 号** 専決処分事項（令和 6 年度鹿島市一般会計補正予算（第 6 号））の承認については、国の物価高騰対策として昨年 1 2 月に閣議決定された「低所得者支援給付金」を速やかに給付するため、1 月 3 1 日付けで専決処分したものです。

本給付金は、特に物価高による家計への影響が大きい住民税非課税世帯を対象に一世帯当たり 3 万円、住民税非課税世帯のうち子育て世帯については、子ども一人当たり 2 万円を加算し給付を行うものです。市内の対象世帯は約 2, 8 0 0 世帯、当該世帯において扶養される 1 8 歳以下の児童は約 4 0 0 人を見込んでいます。

専決処分により予算の総額に 1 億 2 6 万 2 千円を追加し、補正後の総額は 1 6 0 億 4, 5 9 4 万 8 千円となり、あわせて本件は繰越明許費補正を提出しています。

### 【令和 7 年度予算案について】

次に、**議案第 2 号** 令和 7 年度鹿島市一般会計予算については、第七次鹿島市総合計画の総仕上げの年として、住みたくなるマチ・選ばれるマチを目指し編成しています。「子育て支援」や「移住・定住の推進」などの重点事業のほか「市民サービスの向上に向けた新規事業」、また、継続事業は効果検証と改善に取り組み、必要な投資的事業などを精査した結果、予算の総額は 1 6 5 億 7, 5 0 0 万円、前年度との比較で 1 7 億 3, 5 0 0 万円の増となっています。

市債残高は令和 7 年度末で約 1 3 3 億円の見込みで、前年度との比較で約 4 億円の減となっています。

今後も、歳入の確保と効率的かつ効果的な事業運営の努力を続け、目指す鹿島の都市像「みんなが住みやすく、暮らしやすいまち」の実現に向け取り組んでいきます。

### 【令和6年度補正予算案について】

次に、議案第22号 令和6年度鹿島市一般会計補正予算（第7号）については、主に決算見込みや事業費の確定に伴う経費の増減などのほか、国の補正予算に伴う増額を計上しています。

予算の総額に7億7,832万8千円を追加し、補正後の総額は168億2,427万6千円となり、あわせて19事業の繰越明許費補正も提出しています。

国の補正予算に伴う物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金事業では、市民生活の支援及び消費の下支えによる事業者支援を目的とした「プレミアム付商品券発行事業」や「学校給食費保護者負担軽減事業」、「医療機関・福祉施設等の支援事業」などを計上し、物価高騰対策に取り組むこととしています。

また、佐賀西信用組合様及び個人様からご寄附をいただきましたので、その趣旨に沿って有効に活用させていただくこととしています。

### 【その他の議案について】

次に、条例に関する主な議案について申し上げます。

議案第8号 「鹿島市手話言語の理解及び普及促進に関する条例」の制定については、手話言語の理解及び普及を促進することにより、お互いを助け合い、誰もが安心して暮らせる地域共生社会の実現を目指すものです。

次に、議案第 1 1 号 「市長及び副市長の諸給与条例の一部を改正する条例」、議案第 1 2 号 「教育長の給与等に関する条例の一部を改正する条例」及び議案第 1 3 号 「鹿島市議会議員の議員報酬並びに費用弁償等支給条例の一部を改正する条例」の 3 件の制定については、令和 6 年度鹿島市特別職報酬等審議会の答申の内容を踏まえ、市長、副市長及び教育長の給料月額並びに議員の報酬月額を改定するものです。

次に、議案第 1 4 号 「鹿島市職員給与条例等の一部を改正する条例」の制定については、佐賀県職員の給与改正に準じて、社会と公務の変化に応じた職員の給与制度の整備を行うため、所要の改正を行うものです。

次に、議案第 1 7 号 「鹿島市愛野青少年スポーツ振興基金条例の一部を改正する条例」の制定については、取り崩すことができる基金の範囲を見直すことにより、青少年のスポーツ振興をより推進するため、所要の改正を行うものです。

最後に、議案第 2 0 号 「鹿島市水道事業給水条例の一部を改正する条例」の制定については、水道の使用開始申込みに係る開栓手数料を廃止するため、所要の改正を行うものです。

以上、主な議案の概要について説明しました。その他の議案や詳細については、ご審議の際、担当部長又は課長が説明しますので、よろしくご審議いただきますようお願い申し上げます。